

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1289
施設名	上井草保育園
施設所在地	杉並区上井草3-25-19
法人名	社会福祉法人国立保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水 「水をどうやって触る？」 「水を集めるにはどうしたらいい？」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

水遊び、砂場遊び、雨降り後のどろんこ遊びなど季節を問わず、日常的に子どもたちが水に触れています。今後も水と関わって、様々な現象や特性についてさらに興味関心を深めていくため。

2. 活動スケジュール

令和7年5月から令和8年1月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・子どもたちが自由にできる水、水を入れる様々な形の容器（お皿、バケツ、水鉄砲、じょうろ、ホース、雨どいなど）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・土に水が含んだことによる変化に気が付いて、泥団子、チョコレートなど土の状態に合わせて遊びを変化させていた。
- ・水を溜めたい！という思いからどんな道具を使ったら、たくさん溜められるかな。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・シャベルやバケツやお皿を自分たちで用意して、お料理ごっこが始まりました。「チョコレート集めよう」と言って泥に変わっている土を集めてみたり、「スープみたい」と言ってバケツにすくって集めたり…その姿を見て、保育士も「チョコくさーい」とお店屋さんごっこに発展していきました。
- ・今までの砂遊びの経験から山や川を作ろうとする子どもたち。でも、水を運んでも運んでもすぐになくなってしまふ。さりげなく雨どいを用意すると、子どもたちが蛇口から砂場に水が流れるように設置をし始めました。「すごい！」「いっぱいになった」と大喜び。さらに川のイメージが広がるような声掛けを保育士がすると、魚のおもちゃを泳がせたり、山を作って「こっちからも水をながそうよ」とどんどん広がっていきました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・水を使った遊びは、ただ涼をとる活動ではなく、水の感触や性質を通じて、子どもの五感や探究心を育む重要な保育環境の一つだと思った。
- ・保育者は子どもの気付きや感情に寄り添い共感することが大切。また、子どもを見守るだけでなく、一緒に体験する（裸足になったり、触れてみたり）ことが大切。その中で子どもたちの様子や遊びの展開に合わせた環境設定や保育者の言葉かけも重要だと感じた。
- ・子どもたちの遊ぶ姿を見て、子どもたちは水の性質を学んだことで、それに合わせて遊びを展開させたり、必要に合わせて道具を使ったり、遊びを通して生きる力を育てていると感じた。
- ・全ての保育に言えることだが、保育者が子どもたちにどのようなことを経験し気付いてほしいのか、考えて関わったり環境設定したりすることが大切だと改めて感じた。